

令和7年度 第9回大潟区地域協議会次第

日時 令和7年12月18日(木) 午後7時00分から
会場 大潟コミュニティプラザ2階 大会議室

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

(1) 浜線の利用状況と今後の方向性について …資料No.1-1、1-2

(2) 地区まち交流会参加報告について …資料No.2

4 協議事項

(1) 大潟区のフォーラム開催について

(2) 大潟区の「地域の魅力の向上」及び「まちづくり」について

5 その他

・次回地域協議会開催予定日 1月 15日(木) 午後7時00分

6 閉会

浜線の利用状況 (R6. 10～R7. 9) と今後の対応について

1 要旨

第2次上越市総合公共交通計画（後期再編計画）及び昨年度利用状況を踏まえた検討結果に基づき、浜線の利用状況 (R6. 10～R7. 9) について報告するもの。

2 路線バス「浜線」について

- ・起終点及び経路 柿崎バスターミナル ～ 柿崎病院前 ～ 直海浜 ～ 鶉の浜
- ・運行便数 5往復（平日及び土休日共通）

3 浜線の見直しの方向性について

後期再編計画※に記載した再編の方向性	実績を踏まえた方向性
①令和5年10月から令和6年9月までの1便当たりの利用者数が1.0人を上回らない場合は、令和7年4月を目途に路線を廃止し、互助による輸送への転換を検討	①利用者数が1.0人/便であったことから令和7年4月での路線廃止は行わず、現行通りの運行を継続しながら、 <u>バス運行の維持に向け利用促進の取組を強化する。</u>
②継続的に1.0人以上5.0人未満となった場合は、運行形態の転換等を検討	② <u>利用促進の取組を2年 (R6. 10～R8. 9) 程度実施し、安定的に利用者数1.0人以上を確保できた段階で、運行の効率化を含めた運行形態の転換等について検討する。</u> なお、1.0人未満の場合には路線を廃止し、互助による輸送への転換を検討する。

※後期再編計画における大潟区の地域別再編計画…資料1-2のとおり

⑦大潟区

■人口（令和5年3月末現在）

総人口	9,085人	
15歳未満	937人	10.3%
65歳以上	3,216人	35.4%
75歳以上	1,724人	19.0%

■地域の送迎サービス（令和5年10月時点）

No.	名称	運行主体	区間	運行日
1	スクールバス	市	南大潟地区(大潟町小学校区)	通年
2	サロン送迎	まちづくり大潟	大潟区内	月5回

■バス路線の収支と評価結果

No.	路線	区分	収支等の状況(R4決算)								平均乗車密度	評価結果
			経常費用(千円)	経常収益(千円)	経常欠損(千円)	収支率	国県補助(千円)	市補助(千円)	年間利用者数(人)	1便当たり利用者数(人)		
1	上越大通り線(本町経由)	幹線	89,918	24,818	65,101	27.6%	17,362	47,738	176,932 (220,253)	17.3 (21.6)	1.6	IV現状維持
2	浜線	支線	12,734	674	12,061	5.3%	0	9,271	3,539 (6,813)	0.8 (1.4)	0.2	I路線廃止・互助への転換
3	犀潟駅線	支線	7,547	1,817	5,730	24.1%	1,159	4,571	25,340 (47,543)	7.5 (14.0)	1.0	IV現状維持
合計			110,199	27,309	82,892	24.8%	18,521	61,580	205,811 (274,609)	-	-	

※年間利用者数及び1便当たり利用者数における()内の数値は、平成30年度の利用者数

■利用の実態（乗降調査）

No.	路線	【参考】1日当たりの運行便数(便)		1日当たりの利用便数(便)		1日当たりの利用人数(人)				利用の特徴
		平日	土休日	平日	土休日	平日	一般	学生	土休日	
1	上越大通り線(本町経由)	30	24	30	23	297	-	-	95	・通勤・通学、通院、買物など多目的 ・大潟町小で通学利用
2	浜線	10	10	5	4	10	10	0	5	・通勤、通院、買物など ・柿崎区内の利用が主
3	犀潟駅線	14	0	9	0	56	1	55	0	・頸城区内における小中学生の通学利用が主

※上越大通り線・犀潟駅線は令和5年1月調査から、浜線は令和5年4月調査から ※一般/学生の区分は乗降場所等からの推計
※上越大通り線の1日当たりの利用者数は、便ごとの最大利用者数の合計

■再編の方向性

No.	路線名	区分	主な再編時期	再編の方向性
1	上越大通り線(本町経由)	幹線	-	・現状維持
2	浜線	支線	R7年4月	・令和5年10月から令和6年9月までの1便当たりの利用者数が1.0人を上回らない場合は、令和7年4月を目途に路線を廃止
3	犀潟駅線	支線	-	・現状維持 ※頸城区内を運行する他路線とあわせて、再編の効果・課題について調査・研究を行う。

※幹線と支線の乗換拠点は鶴の浜

令和6年3月策定 第2次上越市総合公共交通計画(後期再編計画) 抜粋

■再編前



※【地図の出典】国土地理院発行 5 万分の 1 地形図を加工して作成

■再編後



※【地図の出典】国土地理院発行 5 万分の 1 地形図を加工して作成

地区まち交流会参加報告

1. 開催日

令和7年12月14日(日)

2. 目的

地域の移住定住促進に向けた板倉区の「地区まちワークショップ」の内容や成果、住民主体で進む大島区、牧区の先進事例、定住支援コーディネーターの活動を学び、当地域協議会の活動の参考とする。

3. 視察先

板倉区地区まち交流会活動報告会
(板倉区農村環境改善センター 多目的ホール)

4. 参加者

- ・大潟区地域協議会委員 7名
- ・大潟区総合事務所職員 3名

5. 参加風景



6. 委員感想

① 今回の研修で印象に残ったこと、参考になったこと

委員名	内容
天野委員	<p>地域が抱える課題・解決に向けテーマを絞り、行政が中心となり、住民参加型により、解決に向けた年代別のチーム編成、実施期間、目標設定がされた取組で分かり易かった。</p> <p>地域住民参加での話し合いを行う事によって、課題解決の可能性が見えてくると感じ、その為には、話し合いの「場」を設ける事が必要性と感じた。</p> <p>成果発表会で終わるのではなく、実施に向けた継続と取組状況報告会等の実施に期待したい。</p>
金澤委員	<p>1. 各チーム年代別に課題を協議したこと。</p> <p>2. フォーマットにそって協議し短期・中期・長期的に分け実効策を考えたこと。</p> <p>3. 統一した発表方法でなく、発表形態が各チームで工夫凝らして発表していたのが聞いていても飽きがこなくて良かった。</p> <p>*今回各チームから挙げられた実効策の達成度合に興味がある。</p>
小山委員	<p>板倉区の成果発表は他人事ではなく、自分事としてとらえ、周りを巻き込みながら活動していることに感動した。しかも、本格的な活動は8月からだとのことがすごい！</p>
佐藤委員	<p>板倉区でのまちづくりワークショップ取組みをそれぞれヤング、ベテランの年代別と平場、山間地に分かれて、それぞれ具体的な例をだして報告したこと。</p> <p>携わったメンバーの感想が新鮮でよかった。</p> <p>「山間地ヤング」チームの報告</p>
新保委員	<p>地区まちワークショップ成果発表では、それぞれのチームが地域に必要なもの、必要なことなどを短期・中期・長期と分け、取組を具体的に表していることがとても参考になりました。サブタイトルもそれぞれ考えられて良かったです。そして何より、ワークショップに参加されている地域のそれぞれの世代の方々の”やるぞという心意気”を感じました。</p>
土屋会長	<p>1. 地区まちワークショップ in 板倉区成果発表</p> <p>6 チームそれぞれのテーマが異なっていて、実現できそうなアイデアが発表されたことが印象に残った。</p> <p>私はワークショップの視察に板倉区を3回訪問していた(9/17、10/6、11/25)。</p> <p>発表に至るまでのワークショップが充実していたことが成果発表内容に結びついていて実感した。</p> <p>2. 定住支援コーディネーター活動報告</p> <p>大島区、牧区それぞれ1名のコーディネーターであるが、日常の活動が充実している様子が印象的だった。</p>
俵木副会長	<p>持続可能な地域づくりを目指し、「人・もの・金」や地域の「強み」と「弱み」を分析し今後の定住促進に向けた取組についてはすばらしいことと思います。</p> <p>ワークショップを通して発表されましたが、ベテランとヤング、山間地と平場でのそれぞれで実現可能なものもあれば？と思われるもの(今後は可能となるかも知れませんが)いずれにせよ将来像を見据えた活動は必ず必要となってくるものであろうと思われますし、大潟区に当てはめても参考(ヒント)になる所もあり、勉強させられました。このスタイルをまねすることではなく、大潟に合ったスタイルとして事業を展開して行かなければならないと思います。</p> <p>定住支援コーディネーターのお二人については素晴らしいと思います。特に</p>

委員名	内容
	東京からの加藤さんについては、今までも大島区で活躍されておられる内田さん家族を参考にした部分もあるかと思いますが、お二人の取組については感動します。中山間地だけでなく、上越全域にコーディネーターが在住できれば地域のコミュニティや活性化につながるものではないかと思います。

②今回の研修についての意見、感想

委員名	内容
天野委員	<p>他区の協議会活動を見ることができたことは、参考になり、今後の活動に活かしたい。</p> <p>解決に向けた、進め方や住民主体で進められる先進地事例の活動を学ぶ機会となり、大いに参考になった。</p> <p>行政事業を取り入れた活動を行っても良いのではないかと感じた。</p>
金澤委員	<p>*地区まちワークショップ in 板倉区は上越市創造行政研究所指導を仰ぎ板倉区全体 で取り組んだように思えた。</p> <p>大潟区で取り組むにあたり、地域協議会の主体では出来ないと思う。少なくとも創造研究所などのワークショップのプロの指導を受けながら大潟区全体で行うべきと考えます。また、地域協議会の限られた時間の中ではなく、発起人となりワークショップ実行委員会等を立ち上げ、新たな会で実施すべきと考えます。</p>
小山委員	椅子だけでなく、テーブルも欲しかった。
佐藤委員	<p>板倉区地域協議会の報告と思っていたら「まちづくり」に取り組む住民（山間地・平場）に分かれた報告だった。</p> <p>住民が生き生きと報告した姿は、頼もしい限りだった。</p>
新保委員	特にありません。
土屋会長	<p>委員 13 名のうち 7 名の参加があり、良かったと思う。</p> <p>残りの任期は 2 年 5 か月である。各委員が研修会で各地の実情を知り、大潟での活動につなげられるよう会長として企画していきたい。</p>
俵木副会長	<p>昨年の中郷区に続けて参加させていただきました。</p> <p>両区とも地域協議会だけでなく各方面からの人材により体制を整えて進めて姿が理想的だと感じ、実感できて良かったです。</p> <p>ただ思うのは、創造行政研究所等からの講演会をヒントにするのも良いと思いますが、(即実践可能) その前に自分たち(体制、メンバー) で考え、それを基にヒントをいただく逆パターンにするスタイルの方が、難しいとは思いますが、理想と思います。それが独自性かなと思います。</p> <p>また機会があれば参加させていただきたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>

大湊区内の皆様へ

大湊かっぱ祭り実行委員会

大湊かっぱ祭りの開催について(お知らせ)

令和8年の「大湊かっぱ祭り」は、令和7年12月10日(水)開催の実行委員会において下記の内容で正式に開催が決定いたしました。

先人が紡いできたこの祭りを未来へつなげていくため、運営組織の見直しを行い、新たな体制でスタートいたします。

来年は節目となる第40回の開催となりますので、地域の皆さまと力を合わせて子どもたちの記憶にも残る楽しい祭りをつくっていきたいと考えております。

皆さまのご理解とご協力を、お願い申し上げます。

開催概要

- ◆ 主催：大湊かっぱ祭り実行委員会
- ◆ 開催日：令和8年6月6日(土) ※1日開催とし、雨天時は6月7日(日)に順延
- ◆ 会場：大湊キャンプ場駐車場 ほか
- ◆ 開催方針
第40回の開催を通じて持続可能な祭り運営の土台づくりを行い、次回(第41回以降)につながる内容を目指します。
- ◆ 主要イベント
 - 「かっぱの名前募集」結果発表
 - 山車・竿灯みこし
 - 水上かっぱ相撲
 ※「大民謡流し」は、今回実施いたしません。
第40回の実施結果を踏まえて、今後の開催を検討します。
- ◆ 各種イベント・模擬店
実行委員会および各団体主催によるイベント、模擬店出店を予定しています。
※詳細は決まり次第お知らせします。
- ◆ 協賛金
1世帯：700円
協賛企業および団体：任意

実行委員会体制について

実行委員会は、大湊区内の各団体から選出された委員によって組織されます。

- ◆ 実行委員長
大湊区町内会長協議会 会長 柳澤 浩一(土底浜東区)
- ◆ 事務局構成団体
事務統括：まちづくり大湊
事務局員：大湊区町内会長協議会、くびきの商工会、大湊区地域協議会、NPO 法人おがたスポーツクラブ、大湊観光協会、一般有志



問合せ先 大湊かっぱ祭り実行委員会
事務統括：まちづくり大湊
電話：534-6810
平日9:00~16:00